

大学病院看護部が実施する看護研究の支援体制に関する実態調査
—教育機関との連携体制を中心に—

・はじめに

現在、臨床看護研究は継続教育の一環として義務的に行われ、看護研究実施上の困難に関する報告が多くあります。その背景として、指導者の確保や指導体制の整備の必要性が言われていますが、教育研究機関である大学病院における看護研究支援について、教育機関との連携に関する報告は少ないのが現状です。

そのため本研究では、研究支援のリソースを有すると思われる大学病院看護部および看護系学部が、どのように連携し看護研究支援体制をとっているかを明らかにするため、全国の大学病院と看護系学部を対象に看護研究支援状況に関する実態調査を実施したいと考えております。調査結果は、研究支援体制構築のための基礎資料となり、今まで慣習的に行われてきた継続教育による義務的な看護研究ではない、エビデンスに基づく看護実践につながる看護研究の支援に貢献すると考えます。なお、本研究は、文部科学省大学推進事業「看護実践力ブLOSSAM開花プロジェクト」の一環として行っています。

・対象

1. 全国の大学病院 80 施設の教育担当者（各施設から 1 名）
2. 大学病院を有する看護系大学 80 施設の看護系教員（臨床の看護研究を支援した経験のある方、各施設から 1 名）

・研究内容

アンケート調査を実施します。調査内容は以下の通りです。

1. 病院を対象とした調査

看護研究の取り組み状況とサポート体制

- 教育プログラムの有無
- 看護研究が教育プログラムの中に位置付けてあるか
- 継続教育目的の研究と自主的な看護研究の実施割合
- 研究成果のとらえ方、研究に期待すること、実際の成果（学会発表、看護実践への活用状況）、指導者の状況
- 教育機関との共同研究の割合、教育研究機関と共同した看護研究の支援体制があるか

2. 看護系大学を対象とした調査

看護研究の支援体制

- 病院と連携した看護研究の支援体制があるか
- 臨床看護師が行う看護研究の支援状況(支援期間、継続教育目的か自主的な研究か、支援内容)
- 支援した看護研究の実際の成果(学会発表、看護実践への活用状況)
- 臨床看護師が行う看護研究に期待すること

・個人情報管理について

調査は無記名で行いプライバシーの保護に配慮いたします。調査内容は研究者以外に遺漏せず、資料は研究室の鍵のかかった場所で保管し、研究終了後、紙類は細断、電子データは消去、破棄し、データの二次利用は行いません。なお、結果を学会等で発表し、関連する専門学会誌等に掲載する場合は、匿名性を保障します。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日までです。

・看護上の貢献

本研究により、対象者への直接的な貢献は少ないと考えますが、病院と看護系大学の双方を対象に調査することで、より詳細に実態が把握できます。全国規模で調査することにより、結果は他施設にも還元でき、臨床で行われる看護研究の支援体制構築に広く貢献できると考えます。

・研究機関

研究責任者：医学研究院保健学部門看護学分野	教授	川本利恵子
研究分担者：医学研究院保健学部門看護学分野	講師	藤野成美
	助教	末次美子
	助教	金岡麻希
九州大学病院 看護部	看護部長	中畑高子
	副看護部長	松本裕子
	看護師長	山下春江
	看護師長	馬場チエミ
	看護師長	重松博子
	看護師	藤野ユリ子
	看護師	大村由紀美

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1

Tel：092-642-5553

担当：大村由紀美